

第2次神河町長期総合計画

基本構想

第1章 神河町の将来像(まちづくりビジョン)

神河町では、2007年3月に「第1次神河町長期総合計画」を策定し、その「基本構想」において“ハートがふれあう住民自治のまち”をまちづくりの将来像として掲げ、これを踏まえたまちづくりを進めてきました。

本町の特徴的な町域の形状に着目したこの将来像については、「第1次神河町長期総合計画」策定以来、徐々に住民・地域に浸透してきているところであり、また、近年の人口減少や少子高齢化等、地域における社会環境等が変化する中で、住民自治の重要性は今後ますます高まっていくことが想定されるところです。

こうした状況を踏まえ、「第2次神河町長期総合計画」においても“ハートがふれあう住民自治のまち”を神河町の将来像(まちづくりビジョン)として継承し、その実現に向けた取り組みを進めていくこととします。

将来像(まちづくりビジョン)

ハートがふれあう住民自治のまち

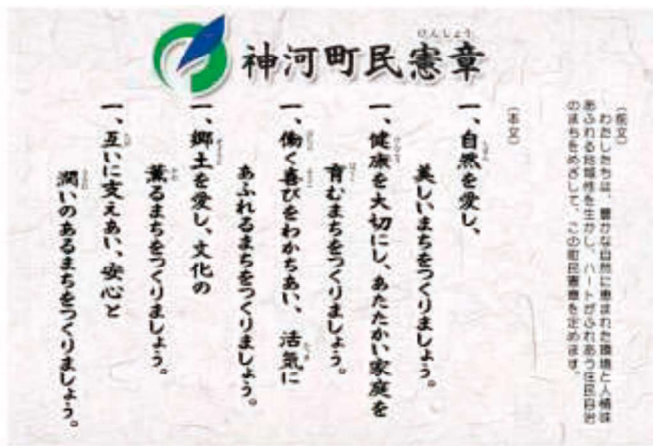
ハート(heart)には、“愛情”“やさしい心”という意味があります。住民の人情ややさしさをこれからも大切に、町に暮らす人、町を歩き交う人が安心・安全に過ごせるまちづくりを目指します。

ハート(heart)には、“元気”“興味”という意味があります。豊かな自然環境や資源を守りつつ、町の魅力を知ってもらい体感してもらええる仕組みづくりを推進し、賑わいのあるまちづくりを目指します。

ハート(heart)には、“熱意”という意味があります。町に暮らすすべての人が主体的にまちづくりへ関わる熱意と関心が不可欠であり、地域への愛情、郷土愛に基づく住民自治のまちづくりを目指します。



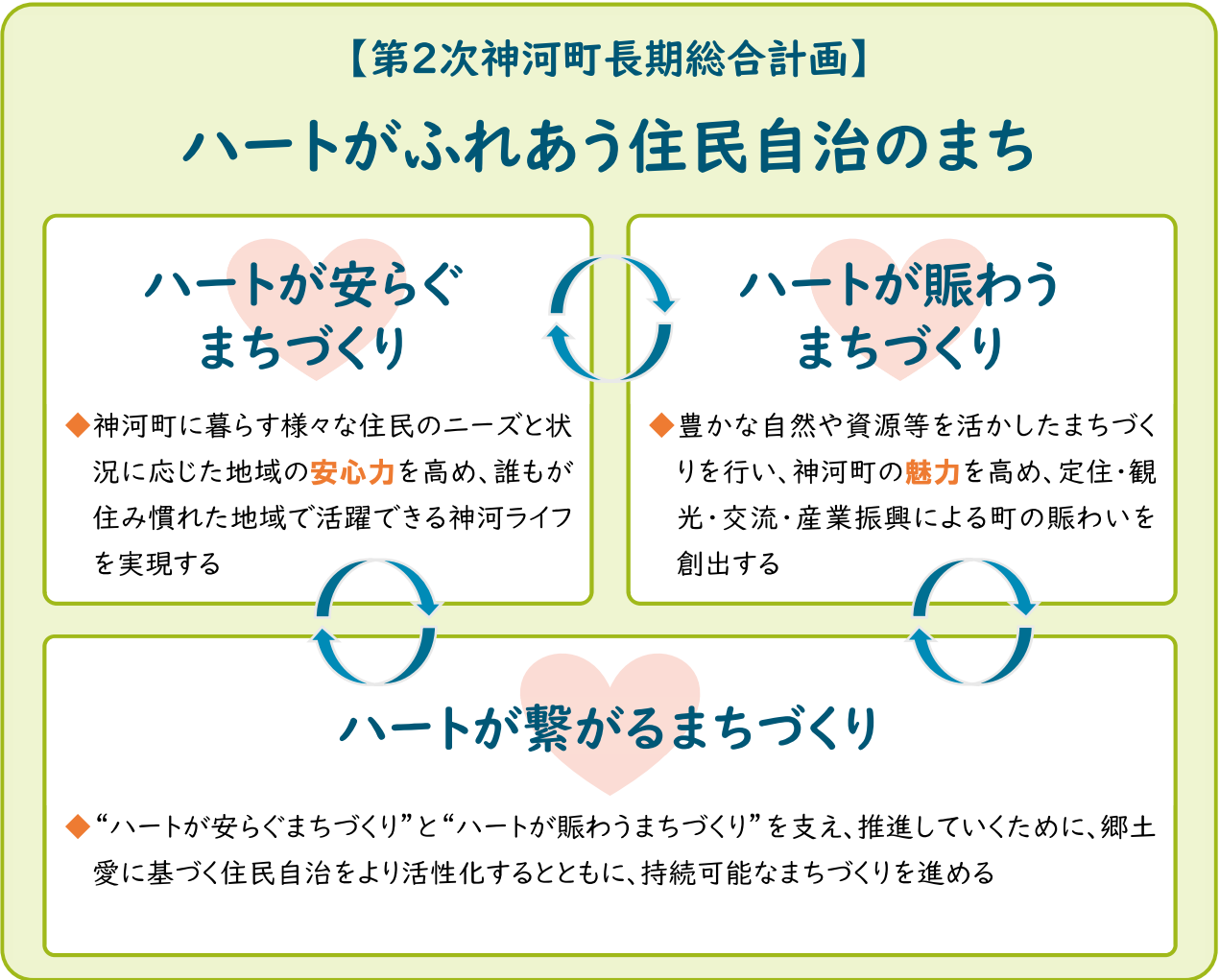
大好き！私たちの町 かみかわ



※2006年11月23日制定

第2章 ビジョン実現に向けた基本的な考え方

将来像(まちづくりビジョン)として掲げる“ハートがふれあう住民自治のまち”の実現に向けては、“ハート”と“住民自治”をキーワードとしながら、次図に示すように“ハートが安らぐまちづくり”“ハートが賑わうまちづくり”“ハートが繋がるまちづくり”を基本的な考え方として設定し、これに基づくまちづくりを目指します。



第3章 まちづくりの基本目標（6本柱）

まちづくりの基本的な考え方を踏まえ、今後のまちづくりについては次の6つの基本目標の実現に向けた取り組みを進めていくこととします。

～“ハートが安らぐまちづくり”の推進に向けて～

基本目標1 郷土を愛し、次世代を担う人材を育てる

- 少子化対策を講じるとともに、楽しく子育てができる環境づくりや子ども・子育てへの多様な支援に取り組めます。
- ふるさと神河への郷土愛を育む夢とともに、神河町の次世代を担う人材の育成に努めます。
- 生涯を通じた学びやスポーツ活動を推進するとともに、芸術・文化に触れる機会の拡大に取り組めます。
- 郷土の歴史・伝統に対する住民の関心の醸成を図るとともに、歴史資源・遺産等の情報発信に取り組めます。

基本目標2 安心して暮らせる環境をつくる

- 誰もが安心して暮らせるように地域福祉を推進します。
- 高齢介護のしくみとして介護保険事業を推進するとともに、高齢者が社会参加できるしくみづくりや障がい者施策に取り組めます。
- 住民の食育、健康づくりや疾病予防を推進するとともに、公立神崎総合病院を中心とする医療体制の充実を図ります。

基本目標3 美しく安全なまちを築く

- 豊かな自然環境の保全に努めるとともに、美しい地域景観の形成に取り組めます。
- 上下水道の再整備（老朽化等による機能強化）を進めるとともに、地球環境への負荷軽減やゴミの減量化に取り組めます。
- IT等の地域情報環境の向上に取り組めます。
- 災害に強いまちづくり、森づくりを進めるとともに、地域における防災体制の強化に取り組めます。
- 防犯や交通安全などの地域の安全確保に取り組めます。

～ “ハートが賑わうまちづくり” の推進に向けて～

基本目標4 人が行き交い、出会うまちを創造する

- 住環境の整備を進め、住み続けられるまちづくりに努めます。
- 地籍調査を推進しながら、魅力的な土地利用の推進を図ります。
- バス・鉄道等の地域公共交通の向上を図るとともに、道路網の整備・維持管理に取り組みます。
- 地域における交流を促進するとともに、町内外を通じた広域的な交流の拡大に取り組みます。
- 町外からの移住促進を図るとともに、移住者等の就労機会の拡大に取り組みます。
- 町で生まれ育った人が帰ってきやすい、戻りたくなるまちづくりを進めます。

基本目標5 魅力と活力の産業を育てる

- 町の基幹産業である農林水産業の振興を図るとともに、地域資源を活かした新たな地域産業の創出に取り組みます。
- 住民の日常生活を支える商工業の振興を図るとともに、企業誘致や新規創業支援に取り組みます。
- 峰山高原スキー場や日本遺産である銀の馬車道を新たな資源に観光の振興を図るとともに、観光情報の発信・ネットワーク化に取り組みます。

～ “ハートが繋がるまちづくり” の推進に向けて～

基本目標6 安定した持続可能なまちを実現する

- 「町民憲章」(2006年11月23日制定)にある「ハートがふれあう住民自治のまち」を目指します。
- 「人権尊重のまち宣言」(2008年3月制定)を遵守し、人権意識の啓発・向上や男女共同参画、まちづくりへの住民参画の推進に取り組みます。
- 住み慣れた地域のコミュニティを中心とする身近な地域づくりに取り組みます。
- 住民と町職員が一体となり、持続的・安定的な地域運営を推進します。
- 公共施設等総合管理計画や行財政改革を推進し、健全な財政運営に努めます。

第4章 まちづくりの施策体系

神河町の将来像(まちづくりビジョン)、基本的な考え方、さらには基本目標(6本柱)について、これからのまちづくりの施策体系として示すと次のとおりです。

将来像 (ビジョン)	基本的な考え方	基本目標(6本柱)	まちづくり分野
ハートがふれあう住民自治のまち	ハートが安らぐまちづくり	郷土を愛し、次世代を担う人材を育てる	子育て 教育 生涯学習・スポーツ 歴史・文化
		安心して暮らせる環境をつくる	地域福祉 高齢者福祉・介護 障がい者福祉 健康・医療
		美しく安全なまちを築く	自然環境・地域景観 生活環境 地域情報基盤 防災 防犯・交通安全
	ハートが賑わうまちづくり	人が行き交い、出会うまちを創造する	土地利用 道路・交通 交流 定住促進
		魅力と活力の産業を育てる	農林水産業 商工業 観光
	ハートが繋がるまちづくり	安定した持続可能なまちを実現する	人権 住民参画 コミュニティ 行財政

第5章 将来フレーム(将来人口)

令和2(2020)年策定の「第2期 神河町人口ビジョン」では、本町の将来人口について次のように展望しています。

令和2(2020)年の国勢調査結果は、10,616人で想定よりも早いペースで人口減少が進んでいます。

